

ペテルの法則

イエシュアの 12 弟子の筆頭に挙げられるペテロ。四福音書において彼に関するエピソードは 30 か所以上にも及びます。今回はこのペテロにスポットを当てて、ヘブル語的視点から「神の選び」について考えてみたいと思います。

1. シモン

これがペテロの本名です。ヘブル語で表記するとシムオン (שִׁמְעוֹן) で、旧約聖書ではシメオンと表記されています。この名前には「聞く、聞き入れる、聞き従う、聞き分ける」などの意味を持つシャーマ (שָׂמָּה) という言葉が込められています。

「彼女はまたみごもって、男の子を産み、「主は私がいかに愛されているのを聞かされて、この子をも私に授けてくださった」と言って、その子をシメオンと名づけた。」 (創世記29:33)

神が人間に求められること、そして最も喜ばれることはこのシャーマです。

「主は主の御声に聞き従うことほどに、全焼のいけにえや、その他のいけにえを喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。(I サム 15:22)

このように、神は何よりもシャーマを求めておられることが解ります。ではシャーマとはどういう状態を表すのでしょうか。シャーマを構成している三つのアレフベートから考えてみましょう。

(ש) シーンは「歯」を象った象形文字です。そこから派生して「噛む、味わう」更に「慕い求める、探究する」という意味を持っています。そして人間は噛む、味わう、つまり食べることによって身体が形成されていくことから「身体、形」を表す文字とも考えられています。ちなみにこのシーン (ש) は「神の形」を表し、スィーン (שׁ) は「人間の形」を表していると考えられています。

(מ) メームは「水」を表す文字です。水は天地創造の以前から存在していた物質であり、また永遠になくなることのない物質とされていることから神の「真理」を表す文字とも考えられています。

(ע) アインは「目」を意味する文字です。当然「見る、見つめる、発見する」という意味が含まれてきます。

(ש) (מ) (ע) この三つの文字が持つ意味を統合すると「水を見つめ、味わって飲む」ように「神の真理を慕い求め、味わい、これを見つめよ。」というメッセージが浮かび上がってきます。それがシャーマ「聞く」ことだと理解することができます。

素晴らしい名前です。神が最も求めておられることがこの名に込められているのです。だから彼は神に、イエシュアに選ばれたと言っていいでしょう。しかしイエシュアは彼に改名を命じます。なぜでしょうか。それはこのシモン、シメオンの後ろの部分にあります。たしかにこのシムオンの前の部分はシャーマ「聞く、聞き従う」というすばらしい言葉なのですが、その後ろにアーヴォーン (אָוֹן) という言葉がくっついているのです。これは「咎、罪、刑罰」を意味する言葉です。人間は神に聞き従おうと思っても、罪の性質が邪魔をして正しく聞くことができません。ですからこのシムオンは、そんな人間の悲しい葛藤を描いた名前とも理解することができます。

2. ケパ

シャーマとアーヴォーンの間で揺れ動く、揺さぶられる者にイエシュアはケパ (כֵּפָא) 実際の発音はケーファーという名前をつけます。「岩」を意味するケーフ (כֶּף) の派生語です。つまり岩のように、揺さぶられることなく「動かない」という意味です。このケーフを構成するアレフベートも見てみましょう。

(כ) カフは「手のひら」を象った象形文字です。そこから「用いる、適用する、業を行う」という意味があると考えられています。

(פ) フェーは「口」を象った象形文字です。ですから「語る、言葉」という意味があると考えられています。

これを統合すると「口と手」を用いて「御言葉を語り、業を行う」という意味が浮かび上がってきます。ただ聞くだけではなく、その聞いた御言葉を自ら「語り、証しし、業を行う」ことが「岩」のように揺り動かされない人となることである、というメッセージがこの「シモンからケパへの改名」の中に隠されていると考えられます。

3. バルヨナ (ヨナの子)

ペテロの父親の名はヨナという人でした。ヨハネとも記されていますが、これは「ヘブル文字からギリシア語文字に書き替えられる時、ヨナとヨハネが区別しにくい時があるからである。(新聖書辞典より)」ということだそうです。しかしここではバルヨナ (בַּרְיֹנָה) ヨナの子と仮定して話を進めます。

ヨナ (יוֹנָה)、実際の発音はヨナーには「鳩」という意味があります。このヨナー「鳩」が聖書で初めて登場するのが創世記 8 章「ノアの箱舟」の場面です。この鳩がオリーブの若葉を加えてノアのもとに帰って来たことは有名な話ですが、意外と認知されていないのがこれが大洪水の後、箱舟に乗っていたものたち以外の全ての地上の生物が減ってから新しい地上における最初の刈り取り、最初の収穫、つまり「初穂」であったということです。つまりヨナーは「初穂」と密接な関係がある名前だと考えられます。

ちなみに先ほどの「岩」を意味する言葉、ケーフと同じ綴りで「手、手のひら」を意味する言葉カフ (כָּף)

という言葉が聖書で初めて使われるのが同じく創世記 8 章の「鳩」の場面です。

鳩は、その足を休める場所が見あたらなかったため、箱舟の彼のもとに帰って来た。水が全地の面にあつたからである。彼は「手」を差し伸べて鳩を捕らえ、箱舟の自分のところに入れた。(創 8:9)

この部分は多少こじつけ的に感じられるかもしれませんが、とにかくこの「鳩」ヨナーが「初穂」と関係があると考えるならばヨナの子、バルヨナであるシモンは「初穂の子」と考えることができます。イスラエルにおいて初穂はすべて「神のもの、神の所有、選ばれたもの」という意味を持っています。

4. ペテロ

ペテロとは本来ギリシャ語からの読み方なのですが、これをヘブル語で表記すると (פֶּטְרוֹ) ペトウロースとなります。ここになんとペテル (פֶּטֶר) 母の胎を最初に開く者、最初に生まれた者、すなわち「初子」の意味を持つ言葉が隠されているのです。

「イスラエル人の間で、最初に生まれる初子はすべて、人であれ家畜であれ、わたしのために聖別せよ。それはわたしのものである。」(出 13:2)

ガリラヤのど田舎の、何の変哲もない無学な漁師の息子であったシモンが、何故に選ばれたのか、その理由はこの「初子」の真理にあると考えられます。私はこれを「ペテルの法則」と名付けました。要するに彼は神のもの、神の所有として、神の主権における選びの中で初めから取り分けられていた、聖別されていたのです。「なんであいつが」と誰も口をはさむ余地はありません。「神が選んだものは、神が選んだのです。」そしてたとえ選ばれた本人がそれを拒絶して逃げたとしても、神は待ち、時にはどこまでも追いかけて、

彼は「手 (カフ)」を差し伸べて「鳩 (ヨナー)」を捕らえ、箱舟の自分のところに入れた。(創 8:9)

とされるのです。興味深いことにこのペテルと同じ綴りでパータル (פֶּטֶר) という言葉がありますが、その意味はなんと「逃げる」です。実にシモンは三度もイエシュアの弟子であることを否み、呪いをかけてこれを否定しました。そして拳句の果てに、イエシュアと共に歩んだあの 3 年半がまるで嘘のように、以前と同じ漁師の姿に戻ってしまいます。つまりシモンは神の選びに対して「逃げた」、ペテルがパータルしたのです。しかしそこへもイエシュアは追いかけて行かれ、シモンを見事に立ち返させます。

5. 目的

イエスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ。あなたはいつまでもこのことをご存じです。あなたは、私があなただけを愛することを知っておいでになります。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」(ヨハネ 21:17)

ここで語られている「愛する」はアーハヴ (אָהַב) です。

- (א) 神が
- (ה) 見る (VISION)、または生きる (いのちをかける)
- (ב) 家 (御国)

神を「愛する」とは、神の VISION を共有することです。神の願いを自分の願いとすること、それは神の国、御国を待ち望む、神の国とその義を第一に求めることです。

最後に「初子」ペテルのアレフベートの意味も見ておきましょう。

- (א) ペーは「口」、「言葉、語る」
- (ט) テットは「蛇」を象った象形文字で「知恵、知性」を表していると考えられています。
- (ר) レーシュは「頭」を象った象形文字で「かしら、思考、」を意味していると考えられています。

この三つを統合すると、「知恵の言葉を語るかしら (指導者)」となります。「わたしの羊を飼いなさい。」と命じられたシモンはその後まさしく御言葉を語る指導者として立っていきます。しかしシモンの「ペテル」としての働きはこれで終わりではありません。なぜならこうあるからです。

そのとき、ペテロはイエスに答えて言った。「ご覧ください。私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。私たちは何がいただけるでしょうか。」そこで、イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。世が改まって人の子がその栄光の座に着く時、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。(マタイ 19:27~28)

これが「ペテルの法則」の最終目的、御国の完成です。神は、イエシュアは最初からこのことのためにシモンを選んでおられました。「ペテルの法則」は絶対の法則です。

神の賜物と召命とは変わることがありません (ローマ 11:29)

これがダメならあれでいく。その時集まったメンバーで何とかする。神の計画はそんな行き当たりばったりの成り行き任せではありません。そしてまたこれは人が望んで、求めて与えられるものでも、また選んで獲得するものでもありません。

あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。(ヨハネ 15:16)

一般の会社には人事部という部署があり、すべての社員はこの指示に従って配置が決定します。しかしこの世界のすべての「人事権」は神にあります。

この「ペテルの法則」を理解すると生き方がいわゆる「指示待ち」の状態になります。自ら考え、計画し、事を進めて行くという責任から解放され、ゆとりと自由が生まれます。実は先ほど述べたペテルと同じ綴りのパータルには「自由にされる」という意味もあるのです。

この人々は歌うたいであって、レビ人の一族のかしらであり、各部屋にいて、自由にされていた。昼となく夜となく彼らはその仕事に携わったからである。(歴代 I 9:33)

この考え方はある意味この世と逆行するものです。夢を持ち、自ら切り開いていくことが美德とされているからです。しかし神が建てようとしておられる御国は「自由」パータルの世界です。私たちは今のこの世にあって、どこまでこの「ペテルの法則」に生きることができるでしょうか。